

アートな麻布に魅せられて⑩ 白亜の殿堂はイスラーム文化の宝庫 —アラブ イスラーム学院を訪ねて—

元麻布の住宅街、通称「狐坂」の途中に、ひと際目立つ白い建物。正式名称は「サウジアラビア イマーム・ムハンマド イブン・サウード・イスラーム大学 東京分校 アラブ イスラーム学院」である。そもそもは1982年、サウジアラビア王国大使館附属の文化機関として設立、2001年に現在の地に移り、アラビア語講座が本格的にスタートした。出資はサウジアラビア王国、運営は国立イマーム・ムハンマド・イブン・サウード・イスラーム大学で、同様の分校はジブチとインドネシアにもある。

アラビア語講座はこれまでに2000人以上が受講

学院の第一目的は、アラビア語学習の機会の提供だ。4月と9月の2期制で、各15週間ネイティブ講師から読み、書き、文法、会話を2年間学ぶ。右から左へ書くアラビア文字の書き方、機材を使っての発音、会話レッスンなど丁寧な内容。昼間は月曜～金曜までみっちり、計300時間の授業があり、夜間は週3回90時間。学期毎にかかる費用は、テキスト代2万5000円のみと良心的だ。習得課程はレベル1～4まで、試験に合格すればステップアップする仕組み。近年受講生の数は増え続けており、特に夜間クラスは通常の2倍に増設されている。開設以来、2000人以上が受講、「タワースル」という同窓会会報誌も発行されている。受講生は、年齢も国籍も様々だ。

スタッフは総勢35名。学院長のナーセル・ムハンマド・アルオマイム博士(Dr. Nasser Mohammed S. ALOMAIM)はアメリカで経営学を学ばれたサウジアラビア人で、2014年から赴任。母国からのスタッフに加え、スーダン、エジプト、インドネシア、チュニジア、パキスタン、ジブチ、フィリピン、ヨルダン、モロッコからなど国際色豊か。日本人スタッフも、講師など5人が常駐している。アラビア語圏への赴任や留学の経験者ばかりで、生徒たちの強い味方だ。

学院の目的は言語のみならず、日本とアラブ・イスラーム世界との友好関係の強化、相互理解への貢献も謳っている。アラビア語の学習以外にも、人気の授業がアラビア書道。異次元の世界の文字を集中しながら綴る面白さに魅せられる人が多い。現に、募集の度にキャンセル待ちが出るほど。日本語・アラビア語翻訳コースや、シンポジウムの開催、料理教室など文化交流を積極的に繰り広げている。アラビア文化を総合的に学べる地としての役割を果たしている。

イスラーム教徒が モスクに集結するのは金曜日

礼拝時間になると、歌のような「アザーン(礼拝への呼び掛け)」の音が館内に響き渡る。体を清めた後に、男性は1階、女性は2階の礼拝所に向かう。礼拝室奥の壁には遥か西、メッカの方向を指すくぼみがあり、そちらに向かい祈りを捧げる。毎週金曜日の礼拝はアラブ・イスラーム諸国の大使など外部から200人近く集まり、地下のホールと1階の礼拝室の両方を使用する。

礼拝には決められた時間に行う義務礼拝と、任意礼拝がある。礼拝の時刻には、集まった人々の中で最もイスラームに精通した人がイマームと



本田孝一さん(日本アラビア書道協会会長)の手によるアラビア書道。本田氏は、日本人で数少ない世界的に有名なアラビア書道家だ。写真提供:本田孝一氏

して礼拝を先導する。その他の時間の礼拝は個々のタイミングで個別にも行われる。アラブ イスラーム学院の礼拝室は常に開放されていて、信者たちが各自で祈りを捧げる姿が見受けられた。

外観の高い門構えで入り難いイメージとはちがいで、広く開放されている印象を受けました。モロッコ人シェフが作る料理もふるまわれ、楽しく、美味しい取材となりました。学院長のアルオマイム博士が、言語習得はもとより、文化面からのアプローチに特に力を入れていることがよく伝わってきました。

2020年の東京オリンピックに向け、ハラール食品やイスラーム教・文化への関心が高まる中、ますますアラブ・イスラーム諸国との友好関係が強まることを確信しつつ、学院を後にしました。

港区元麻布 3-4-18

電話/03-3404-6622 <http://www.ait-t.org/>



(上)男性用の礼拝室。毎週金曜は、収容しきれずに地下の部屋も礼拝室として開放している。女性用の礼拝室は2階にある。(右)図書室も完備していて、様々な言語に訳されたコーランが並ぶ。



展示室にはサウジアラビアの民具などが展示されている。



(上)外観は地上4階、地下2階建ての堂々とした白亜の殿堂。
(下)大きな扉には 2カ国の国旗がはためく。



モロッコ人シェフがふるまうアラブ料理。鶏と羊がメイン。クスクス料理も供される。米はインド産のバスマティ米を使用。



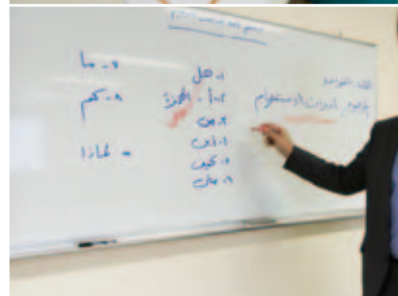
学院長のナーセル・ムハンマド・アルオマイム博士。日本との文化交流に大変な情熱を持っている。



エジプト国籍の女性講師は、アラビア語の発音を視聴覚室で教えていた。



密度の濃い授業風景。読み、書き、文法を学ぶ。授業は6割以上の出席が必須だ。

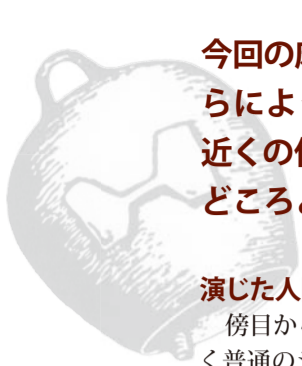


麻布びと

未来へ残したい麻布の声



役者
清水 しみず
脇田 わきた
直子 なおこ
康弘 やすひろ
さん さん



今回の麻布びとは、劇団俳優座に所属する清水直子さんと脇田康弘さん。1944（昭和19）年に千田是也らによって設立された俳優座は日本を代表する劇団のひとつ、1954（昭和29）年から六本木交差点近くの俳優座劇場を拠点に活動している。10代～80代まで、研究生を含めると百余名いる中では中堅どころという位置づけのお二人を、劇団の稽古場に訪ねた。

演じた人間を見てほしい

傍目からは派手な職業と思われがちだが、稽古場の二人はごく普通のジーンズ姿。清水さんは高校で友人に誘われ演劇部に所属、憧れの先輩を追って大学で演劇を専攻した。脇田さんは大学で国際関係学を学んだ後、友人の勧めで俳優座研究所に入り、演技を磨いてきた。意外にもお二人とも人前で素の自分を晒すのは苦手だという。台本を繰り返し読み込み、台詞を覚え、役柄に合った自然な物言いや体の動きを稽古で探して試し、周りの役者との呼吸を掴めるようになっていくと、そこに気持ちが付いて来て役の人物を演じられるのだそうだ。



清水さん行くところ常にこのバッグあり。台本、衣装、化粧道具、うがい薬など。肝心な物を忘れてる事もあるとのこと。

準備した役作りを本番で生かす為に体調管理も欠かせない。喉を痛めないようマスクをしたまま眠ったり、当日朝は、ストレッチで身体をほぐしたり。

演劇は人間を描くもの。演出家やスタッフ・出演者と練り上げた人間像、舞台の上で役者同士のやり取りから生まれるエネルギーを、観客に感じ取ってほしいという。

清水さんの挑戦

様々な年齢や職業を演じ分けなければならない俳優にとって、普段の人間観察も欠かせない。大富豪の夫人役を演じた清水さん、演出家から「今のリアクションだと余裕が感じられなくてお金持ちに見えない」と指摘されたそうだ。「お金持ちになった経験がないからかしら」と苦笑いするが、2012年度の「読売演劇大賞・優秀女優賞」を受賞した実力者だ。昨年11月の公演では重要な役を演じていた女優が体調不良で途中降板。この緊急事態に代役として清水さんを推したのが脇田さんだった。「短期間で膨大な台詞を覚え、この難しい役を演じられる女優さんは清水さんしかないと思いました」と脇田さん。清水さんは通し稽古もないばかりか別の芝居の稽古と並行しながら、台詞とキッカケを覚え、「何とかお役に立ちたい」という気持ちで、2日後から代役として舞台上に立った。「心臓はバクバクでした」というものの、代役とは思えない見事な役づくりまで見せ、先輩共演者達の期待に応えた。



2012年度「第20回読売演劇大賞・優秀女優賞」のトロフィー、『バック・オブ・ライズ〜うそ・嘘・ウソ〜』のバーバラ役と『野かも』のギーナ役で受賞。

脇田さんの想い

戦後の歴史とともに歩んできた俳優座は“時代に目を逸らさない劇団”として戦争と平和をテーマにした作品を定期的に上演している。清水さんの9期後輩にあたる脇田さんは、5月公演『反応工程』で軍需工場の労働運動に奔走する職員を演じた。戦時ものには欠かせない軍人の衣装や号令で整列する動作を、戦



「いろんなことに興味津々、なんでもやってみよう」という脇田さん

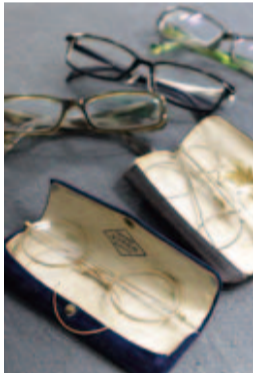


「稽古が大好き」という清水さん

時下実体験でゲートルを履いていた大先輩から直接教えてもらったのも俳優として貴重な財産だ。「自分自身、戦争を直接経験した世代ではありませんが、舞台を見て下さった観客の皆様何かを持ち帰って頂けたらという思いで役を演じています」という。

六本木の街と共に

お二人にとって六本木は研究生時代から20年ほど通いつけている“職場”だ。学生時代は「六本木の街は敷居が高いイメージだった」というが、街並みや人々の変貌を見続けるうちに街への愛着もわいてきたという。金曜の夜、お二人はボランティアとして六本木の清掃活動に参加している。地元の住民や在勤者が続けている『六本木をきれいにする会』の活動だ。「街を綺麗に掃除したあとのお世話になっている皆さんと酌み交わすお酒の美味しさもまた格別な魅力です」と清水さん。顔なじみになったボランティア仲間が二人の芝居に足を運んでくれるようになった。「舞台が跳ねて一緒にビールを飲みながら皆さんの感想を聞くのはとても勉強になります。僕らにとって大切な応援団です」と脇田さん。すっかり六本木の街に溶け込んでいるようだ。



脇田さんのコレクションの一部。役にに応じて使い分けるだけでなく、趣味の一つとなっている。



揃いのブルーのジャケット姿で、箒と塵取りを持って六本木交差点付近の掃除に参加する二人。

清水さんの次の舞台は7月23日から8月7日までの現代劇『狙撃兵』。カナダが舞台のブラックコメディで女性政治家の役。脇田さんは8月24日から31日までの朗読公演『華族令嬢たちの大正・昭和』で、実在した旧華族へのインタビュー役。



脇田さんは俳優座の野球チームの貴重な戦力。ピッチャー、キャッチャー、マネージャーと何でもござれ。

いずれも劇団俳優座5階稽古場で上演される。

真夏の夜、お二人の熱い演技を見て人生を考えるのも、素敵な過ごし方ではないかしらん。

ワタシも麻布っ子

このコーナーでは、あなたの大切な“家族”を紹介していきます。

今回の麻布っ子は、六本木のとあるマンションに棲む4匹の鯉(ジジ・白・紅・まだら)です。竣工以来、マンションのペットとして、居住者のみなさんに愛されてきました。今日も水槽の中で何やら井戸端会議。何を話しているか、ちょっと耳を傾けてみましょう。

色鮮やかな錦鯉。左から紅(べに)、白(しろ)、まだら。エサやりは毎朝1回きり。ペットとしては手のかからない部類だとか。



ビューン、ビューン!



これこれまだらちゃん、水槽の中は制限速度を守ってね。危険水泳をしてはいけないわ。



あら、お白はん。アンタかてここに来たばっかの20年前は結構なスピード狂やったんちゃう。



えっ、紅&白のおばちゃん達、20年も前からここで泳いでるの?



そうじゃよ、彼女たちはわしの幼な友達が亡くなってから、やってきたんじゃ。若い頃は、そりゃ身軽でピチピチしてあってな。



ってことは、ジジは今年いくつになるの?



わしゃ、このマンションの竣工当時からあるし、もう37年になるかのう。同期3匹とこのライオン壁泉のある水槽で、'都会派の鯉たち'として、一世を風靡したもんじゃよ。



水枯れアクセントで先代の2匹が息絶えた後、私たち“美しすぎる鯉たち”が来たの。その頃、ジジの同期がもう1匹いたのに、4年ほど前から、お隠れになってしまって。まだらちゃんはその後釜よ。



そっかあ、僕、いつまでも小僧扱いなわけだ。それにしても、こっつて居心地のいい水槽だよな。



掃除はもちろん酸素かて注入してくれはって、随分過ごし易なつてんなあ。でも、夏は日差しがきつうてな、葦簾(よしず)でも立ててくれはったらええねんけど。



そんなの立てたら、ロビーからガラス越しの景色が台無しじゃない。私たちシティー派の鯉はおしゃれでなくっちゃ。



おしゃれに気いつかうんやったら、ちょっとはその旺盛な食欲もコントロールしい!



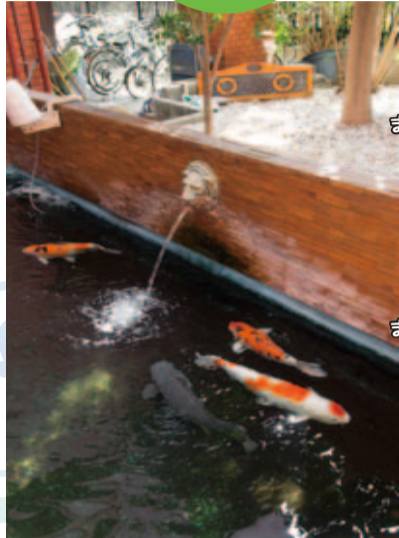
まっ、放つといて頂戴!



8キロのメタボおばちゃん達、興奮しすぎて、頭が赤く染まってるよ! 鯉の寿命は20年って聞くし、美容と健康のためにも、仲良くしてね。



体長70センチはあるうかという紅。大食漢と思いきや、昼下がりのエサには目もくれない。



滞滞なマンションの中庭に設置された洋風の水槽。ライオン壁泉の下、優美に泳ぐ4匹の鯉たち。

あなたの大好きな動物をご紹介します。

必ず写真を添えて、下記宛てに郵送ください。飼い主の自薦、他薦は問いません。飼い主と一緒にの写真も掲載できます。ご応募多数の場合は編集会議に諮りますが、採否の審査過程のお問い合わせには応じかねます。採用させて頂く場合は改めて取材に伺います。お送り頂いた資料は採否に拘わらず返却致しませんので、予めご了承下さい。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。

〒106-8515 港区六本木5-16-45

港区麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当 「ワタシも麻布っ子」応募係

お待ちしております!



(取材・文/出石供子)

地域社会のゆくえ

19

バリアフリー化された日比谷線広尾駅 —港区との複合施設としてより快適に—

地下鉄利用者や地域住民が長年待ち望んでいた広尾駅のバリアフリー化が実現し、4月1日にリニューアルオープンした。駅の地上部には港区立自転車駐車場、(公社)港区シルバー人材センターが運営する「みなとふれあい館」、障害者グループホームが整備され、東京メトロと港区が共同で取り組んだ複合施設として注目されている。



新設された4番出口



4番出口隣が「みなとふれあい館」の入口

港区役所土木課の松井良晃さんにお話を伺った。「今回のバリアフリー化により新設された西麻布寄りの駅出入口(4番出口)は、区が所有する『旧みなとふれあい館』の跡地(南麻布5丁目)

です。バリアフリーのスペースが必要な東京メトロと土地の有効活用を目指す港区の双方の話し合いが始まったのは平成19年。平成24年に施設の構想が確立。平成28年のオープンまで9年を要しました。」新設された4番出口には、エレベーターとエスカレーター(上り専用)が設置され、エレベーターは地下1階の改札口通路につながっている。外苑西通りをはさんだ従来の3番出口とも地下1階通路で結ばれた。

駅地上部の1階、2階が自転車駐車場で、1階は一時利用、2階が定期利用専用で、収容台数は合わせて195台。区民優先エリアも用意されている。一時利用なら2時間まで無料なので、買

物やちょっとしたおでかけには好都合だ。入口は駅出入口の裏手にある。4月現在の定期利用は100台余りで、6割が港区民だそうだ。管理員はの多くは港区民で、親切、丁寧に対応してもらえる。(自転車駐車場の問い合わせは、03-5420-1171へ)



自転車駐車場のスタッフの方々。「気持ちよく利用していただけるよう、笑顔で挨拶を心がけています」

3階、4階の「みなとふれあい館」では、囲碁や活け花などのカルチャー教室やパソコン教室など、多彩な講座が開かれている。館内は白を基調とした明るく落ち着いた雰囲気、しばし都心の喧騒を離れ、ゆったりと「次の一手」に思いを巡らすことができそう。もちろん年齢制限はなく、区外の

人も大歓迎。1階には上層階専用のエレベーターが整備されているので、高齢者や障害者も気軽に利用できる。(カルチャー講座・パソコン教室の問い合わせは03-5475-1305へ)

広尾駅の1日の乗降者数はおおよそ6万人。恵比寿、麻布といった人気エリアの拠点ということもあって、その数は年々増えている。駅構内の改良工事、バリアフリー設備、トイレ、改札など平成31年11月まで行われ、ますます便利に、そして綺麗になっていく。「自転車で駅へ、駅のホームへはバリアフリー、合間をぬってカルチャー教室へ」—駅を中心とした快適でやさしい暮らしが広がっていくことは間違いなさそう。



囲碁教室。暮を置く音が静かに響く

取材協力/街づくり支援部 土木課 交通対策係 松井良晃さん

(取材・文/関口 誠、山下良蔵)



障害者グループホーム

みなとふれあい館

自転車駐車場

4番出口

地下1階通路



2階は定期利用専用のフロア。取材日は雨だったため、いつもより自転車の数は少ない。



レオナルド・カリオン・エギグレン大使
Leonardo CARRION Eguiguren

エクアドル共和国

面積: 25.6万平方キロメートル
(本州と九州を合わせた広さ)

人口: 1542万人
(2013年、エクアドル国家統計調査局)

首都: キト

元首: ラファエル・コレア大統領

議会: 一院制(任期4年、計137議席)

参考: 外務省ホームページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ecuador/>

取材協力/エクアドル共和国大使館

大使を訪ねて 35
麻布の"世界"から



ECUADOR

地震の被害を乗り越え、自然と共存し、前を向いて進む国

2016年4月16日現地時間の18時58分、南米エクアドル沿岸部を震源とする(マグニチュード7.8)地震発生が世界中を駆け巡った。熊本地方を襲った本震(最大震度7、マグニチュード7.3)からわずか17時間後のことだった。地震の規模は熊本地震の約20倍。P波とS波、縦揺れと横揺れが同時に起こる揺れにより、エクアドルが誇る美しい北沿岸部一帯は壊滅的被害を受けた。緊急事態の状況下にも関わらず、レオナルド・カリオン・エギグレン大使(Leonardo CARRION Eguiguren)(以下 大使と表記)は、私たちの取材に応じて下さった。



エクアドルの富士山、コトパクス山(5897m)。



西麻布の通称「大使館ビル」8Fにあるエクアドル大使館入口の紋章。

現実を受け入れ、二国間の今後さらなる結びつきを

インタビューの始めに、地震の被害に遭われた方に心より御見舞いを申し上げた。大使から「災害は常に起こる。日本も東北の震災を通し、世界に回復する力、復興する力を示してくれている。また、このたび熊本での災害にも関わらず、日本政府や港区はじめ、連帯感、一体感、友情を示してくれている。日本には大変感謝している。我々も現実を受け入れ、前進していく。痛み、苦しみは、我々をさらに強くする」と、力強い言葉が返ってきた。

大使は2012年1月より赴任。これまで、チリ、ウルグアイ、ボリビアなどで公使、大使を務めてこられた。アジア圏は初。「遠いと思っていた日本とエクアドルは、古くは繋がっていたのかなと思ひながら、とても親しみを感じている」とおっしゃる。例えば、B.C.3500年頃、海岸部で誕生したバルビディア文化のヴィーナス(母性像)と、日本の縄文土偶が酷似している点、アンデス音楽は日本の伝統音楽と音階、特徴に共通点があること、民芸品や食文化にも類似点が多いという。縄文時代は日本とエクアドルは地球上で陸続きだったかもしれない、そんな壮大な歴史的ロマンも広がる。

大自然がもたらす「破壊」と「恵み」

南米大陸 赤道直下に位置するエクアドル

ル。国名のエクアドルはスペイン語で「赤道」を意味する。首都は標高2850mに位置するキト。国の総面積は日本の本州と九州を合わせた広さ。東京都の人口にほぼ近い1500万人が住む。2007年から国を率いるコレア大統領は現在53歳。人口の半分以上は25歳未満。出生率は2.6人(日本は1.42人(2014年))。まさに、若さみなぎる太陽の国である。

14年に一度発生するといわれるスーパー・エルニーニョによる大雨と洪水の影響で、各地の地盤は緩んでいた。また、歴史的にも、地層的にも、今回の大地震を引き起こしたナスカプレートと南米プレートのズレは、太平洋沿岸のエクアドルをはじめチリやペルーで繰り返され、自然との共存との厳しさをつきつけてきた。

国内には「エクアドルの富士山」と呼ばれるコトパクス山(5897m)やトゥングラウア山(5023m)など、現在噴火中の火山を4つ抱えている。しかし当然のことながら、火山活動による自然の恵みも大きい。各地にパニョスと呼ばれる温泉がある。国の中央にはアンデス山脈が走り、車を借りて国内を一周すれば、海あり(コスタ海岸地帯)、山あり(シエラ山岳地帯)、島あり(ガラパゴス諸島)、森・湖あり(オリエンテ熱帯雨林地帯)。世界中から観光客をひきつけてやまない大自然の宝庫、希少なパラダイスだ。「唯一ないものは、スキーかな。



ガラパゴス諸島は、エクアドル本土より西へ900km。多くの固有種が生きている世界遺産の島である。



雪は降るけど、5000m以上と標高が高すぎてね」と、にこやかに話される大使。

エクアドル産のブロッコリー、美しいバラの花

エクアドルからの輸入は増加している。中でも、日本の食卓を彩るブロッコリーにエクアドル産が多いことをご存知だろうか。標高が高いため病害虫が少なく、太陽の光をさんさんと浴びて、緑深きエクアドル産は人気が高い。赤道直下で育つブロッコリー。ビタミンCやミネラルの含有量もことさら多いのかもしれない。また、近年人気のスーパーフード「キヌア」や「チアシード」もエクアドル産が主流だ。

いる。エクアドル産の色鮮やかなバラが多く使われているというのも新しい発見で、私たちの日常生活に様々な商品が浸透しているのだ、と改めて思った。

主要対日輸出品					
100万ドル					
HS	品目	2005	2007	2009	2015
08	バナナ	50.57	31.58	47.46	50.71
23	魚粉	16.65	34.47	34.34	34.34
44	木材チップ	16.54	13.62	16.44	-
03	マグロ、その他魚介類	9.84	7.1	15.62	-
07	冷凍ブロッコリ	10.39	12.36	14.94	-
06	花	7.95	9.18	10.18	3.7
18	カカオ	12.9	14.46	9.83	11.52
21	その他食糧	5.82	7.01	5.53	-
53	繊維	2.32	2.04	2.44	-
20	保存食品	1.04	1.58	1.77	-

出所: Japan Customs 主要対日輸出品の推移。ブロッコリーや花類が順調に伸びていることが分る。

新たな100年にむけて

2018年、エクアドルと日本は外交樹立100周年という大きな節目を迎える。「両国が共有する平和と持続的発展への強い願いは国際社会の指針となっていくことでしょう」と、大使からの温かなメッセージを頂き、大使館を後にした。2016年4月、ほぼ同時に起きた大災害。自然に恵まれるも、時にそれがもたらす破壊による被害を若い力で復興していこうという前向きな姿勢が、人々に満ちあふれている国、それがエクアドルだ。新たな100年に向けて、両国間に何をもちたらし、私たちをどこへ導くのだろうか。

●日本赤十字社では、「2016年エクアドル地震救援金」を受け付けている。

http://www.jrc.or.jp/contribution/160419_004220.html

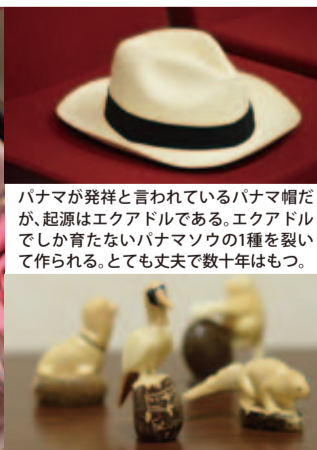
●大使館HP

<http://www.ecuador-embassy.or.jp/j/index.html>

(取材・文/石川味季、小池澄枝 取材・編集/高柳由紀子)



1年中供給が可能なエクアドル産のバラはプリザーブドフラワーの需要が多い。



パナマが発祥と言われているパナマ帽だが、起源はエクアドルである。エクアドルでしか育たないパナマソウの1種を裂いて作られる。とても丈夫で数十年はもつ。



「バルサ」とよばれる、バルサ材という木で作られた民芸品。鳥や金魚など、南米のカラフルな色合いが特徴。



昭和59(1984)年:丹波谷坂 標柱近景 写真撮影:田口政典氏 写真提供:田口重久氏



平成25(2013)年



麻布未来写真館 丹波谷坂

六本木裏に伝説の旗本あり

“丹波谷” 何とも厳つい名前の坂だが、その由来は元和年間(1615-1623)に旗本・岡部丹波守の屋敷ができ、坂下を丹波谷と呼ぶようになった。明治初期にこの坂を開き、谷の名から坂の名称とした。今では華やかな六本木の裏路地にひっそりと佇む丹波谷坂にはどんなエピソードがあるだろうか。

伝説?

“丹波守”は官職名であり、本名は岡部与賢。和泉岸和田藩(現在の大阪府)岡部家初代・長盛の次男で2代將軍徳川秀忠に近侍して小姓組番頭、大番頭を歴任。小姓組番頭はいわゆる將軍の身辺警護責任者のような役割を担っており、大番頭は戦時の騎馬隊指揮官(侍大将)。齒に衣着せぬ物言いをする人物だったようだ。

そんな与賢の性格は岡部家由来のものだったのだろうか?

岡部家?

岡部家の歴史は古く、与賢の性格を裏付けるような面白いエピソードを持つ人物を発見した。1人は岡部元信(長教)。永禄3(1560)年、桶狭間の戦いで尾張鳴海城を拠点に織田勢と激戦を展開、主君・今川義元が織田信長に討たれた後も頑強に抵抗。主君の首と引き換えに開城を申し入れ、信長もその忠義に感じ入り義元的首級を丁重に送り届けたという。戦国期下剋上の代表格とも言うべき合戦で、かの信長相手に敗軍の将でありながら堂々と渉りあったところに岡部家の武骨たる性格が表れている。



岡部家の家紋は三つ巴紋。静岡県岡部町の岡部川と朝比奈川の合流点の渦巻きを象って家紋とした。



岡部長職。身長180cmと当時ではかなり大柄で格好もよかったようだ。写真:『評伝 岡部長職—明治を生きた最後の藩主』より

第15代東京府知事?

桶狭間の戦いから約300年後の嘉永7(1855)年、和泉岸和田藩最後の藩主岡部長職が産声をあげる。江戸時代末期、明治維新を目前に誕生した長職もまた、伝説的人物と言える。和泉岸和田藩江戸上屋敷(現在の千代田区永田町2丁目、跡地は都立日比谷高校)で生まれ、明治元(1868)年家督を継ぎ、その翌年には版籍奉還により知藩事(現在の都道府県知事の前身)となる。(知藩事となった当時は“大阪府”となっていなかったため、正式には歴代(大阪)府知事として数えられてはいないが、最初の大阪府知事といっても過言ではない。



昭和50(1975)年丹波谷坂 坂下から 写真撮影:田口政典氏 写真提供:田口重久氏

明治4(1871)年の廃藩置県により免官となり、東京へ移る。悪く言えば失業し、無職となった訳だが、長職はめげることなく明治7(1874)年に慶應義塾に入学、福沢諭吉の勧めで渡米。現代で言うところの“海外留学”に出る。

明治17(1884)年に子爵となり、明治23(1890)年に外務次官を経て貴族院議員となった。

明治30(1897)年には(第15代)東京府知事(現在の東京都知事)となり、明治41(1908)年に第2次桂太郎内閣の司法大臣(現在の法務大臣)になる。

外国仕込みの紳士的態度と殿様的鷹揚さとは、彼が周囲に与える一貫した印象であった。議場においても、その風格がもたらす穏やかな雰囲気、一種の名物であつたらしい。

“穏やかな雰囲気”とは裏腹に、藩主→知藩事→(廃藩置県)→外交官→貴族院議員→東京府知事→司法大臣と波乱に富んだ生涯であつたに違いない。

この2人のエピソードだけをとって“岡部丹波守(与賢)”を表現できる訳ではもちろんないが、総じて岡部家には傑物が多いことも否めない。

余談ではあるが、岡部長職の長男・長景は東條内閣の文部大臣、三男・村山長挙は朝日新聞社社長である。

現在の“丹波谷”

現在の丹波谷坂は六本木通り、外苑東通り、麻布通りに囲まれた三角地帯のほぼ真ん中になる。“谷”と言うだけあって、坂は急勾配で道幅も狭い。3本の大通りの喧騒が嘘のようにひっそりとしている。明治になって切り開いた坂ではあるが、谷の面影がなんとなく偲べる場所でもある。都会の喧騒を一步潜った先に静かに「伝説」が眠っていた。



平成25(2013)年

参考文献 森岡浩 編 日本名門・名家大辞典 株式会社東京堂出版 小川原正道 著 評伝 岡部長職—明治を生きた最後の藩主 慶應義塾大学出版株式会社

「麻布未来写真館」とは

港区麻布地区総合支所では、平成21年度から区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存を通じて、住民の方々にとって身近な歴史・文化的な資料価値を持つ写真を保全・継承し、より一層活用することを目的としています。同時に、まちの歴史や文化をより多くの方々へ知っていただき、まちへの愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています。

未来に向けて、残し、伝えていくべき「麻布地区の古い写真」がありましたら、港区麻布地区総合支所までお寄せください。

詳細につきましては、「協働推進課地区政策担当」までお問合せください。

お問合せ 電話:03-5114-8812



—ジョセフ・C・グルー—駐日米特命全権大使—

日米友好に尽力した人

麻布の軌跡

駐日米大使 ジョセフ・クラーク・グルー (Joseph Clark Grew 1880-1965) は、昭和7年(1932)に着任し昭和17年(1942)まで10年間任務に就いている。アリス大使夫人(1883-1959)は、父トーマス・ペリーと印象派の画家母リラと共に、明治31年(1898)から3年間、麻布桜田町44番地(元麻布三丁目4番)で生活している(ザ・AZABU Vol.19)。トーマス・ペリーは、嘉永6年(1853)に開国を促したマシュー・ペリー提督の兄のひ孫であり、かつ、慶應義塾大学教授であった。

グルー大使は、自らの理性と忍耐の日々で、日米両国の深い友情を築いた。太平洋戦争前の日米関係が緊迫する昭和14年(1939)、休暇から帰任した大使は、日本のある新聞の記者の「胸中短刀をかくすや、鳩を抱くや」との問いに、「私は日米間の友情のために、知力、意力、体力の全部を傾けて働こうという望み以外、何もものをもかくしていません」と答えると自著「滞日十年」の中で回顧している。



1941年頃の東京ローンテニスクラブハウスにてグルー米駐日大使(前列左から1番目)とお仲間たち(東京ローンテニスクラブ 所蔵)

J・グルー大使の着任

グルーは、ボストンの名門実業家に生まれ、名門グロトン校で学び、明治35年(1902)にハーバード大学を卒業した。シンガポール、香港、日本へと一年余かけて卒業旅行をし、この旅の途中、中国の狩りで虎を仕留め、日本に寄った。長崎から京都をめぐる、日本人の器用さと人々の共働きと笑顔を中心に留め、横浜港で帰国船の船員らと黄昏れに染まる富士山を見ながら国歌を斉唱した時を忘れがたいと紀行文に書いている。

明治37年(1904)に国務省に入り外交官となり、カイロに着任。明治38年(1905)にグルーは、アリス・ペリーと結婚した。ボストンでふたりは偶然に出会ったが、この結婚は日本のお蔭だとグルーは回顧している。

その後、グルーはカイロ、メキシコ、ロシア、ドイツを歴任し、大正8年(1919)第1次世界大戦、パリ講和会議に米国代表団の書記官として出席した。同じ会議に日本代表団として出席した西園寺公望(1849-1940)、牧野伸顕(1861-1949)、随員吉田茂(1878-1967)らと出会い、代表団芳名簿をグルーは個人的にもらっている。後に、駐日大使となったグルーは、奇しくも日本で彼らと深い交友を結ぶことになる。続けてヨーロッパで外交活動に従事し、国務次官を経て、昭和2年(1927)にトルコ駐在米大使となった。昭和7年にグルーは日本に着任した。

J・グルー大使の任務

米国に忠誠心を持ちつつ、知日派であった大使は、「大使の任務は、日本におけるアメリカの権益の保護と、日米両国の友好を深め、親善に尽くし、その関係を維持することである」と常々語っていた。

昭和8年(1933)、グルー大使夫妻の三女、エルシー (Elsie 1912-1998)が大使館で米外交官と結婚式を挙げた時、香淳皇后から金時絵宝石箱、貞明皇太后から銀製花瓶、また秩父宮殿下から漆塗箱のお祝を頂き、秩父宮両殿下、齋藤実総理らの上流階級の人たちが多数出席した。

グルー大使は、昭和9年(1934)のペリー記念日の挨拶で日本には今でも不滅の文化、芸術、文学などが存在している事と、また開国後、近代西洋文明を受け入れて産業や経済上の発展をしたと述べている。そして、昭和12年(1937)4月にヘレン・ケラー (1880-1968)が、視覚と聴覚障害のハンデキャップを克服し、社会福祉活動のために来日したことを深く日本人が心に受け止めたことに大使は感動している。

スポーツを好み、テニスとゴルフが楽しみであったグルー大使は、昭和14年(1939)から東京ローンテニスクラブの会長に選任され、クラブは昭和15年(1940)麴町区三年町(現千代田区)から麻布盛岡町(現南麻布5丁目)に移転した。

日米関係に大きな転機をもたらした、日本の国際連盟脱退(昭和8年)、日中戦争勃発(昭和12年)、日米通商航海条約破棄通告(昭和14年)、日独伊三国同盟(昭和15年)、太平洋戦争開戦(昭和16年 1941)などと2.26事件(昭和11年 1936)にグルー大使は、遭遇した。

昭和16年前後の日本の推移を一部軍部の強硬派の突出と分析している。他方、グルー大使は、宮中グループ、実業界、海軍将官たちの日米友好を願う穏健派の存在を承知していた。牧野伸顕、松平恒雄宮内大臣(1877-1949)、樺山愛輔(1865-1953)、白洲次郎(1902-1985)、吉田茂らと交流をしている。グルー大使は、戦争回避と日米両国の和平のために近衛文麿(1891-1945)首相とフランクリン・ルーズベルト大統領(1882-1945)との会見を実現すべく

昭和16年9月前後まで困難な時局に立ち向かい、尽力をしたが失敗に終わった。

昭和16年12月8日、日本の真珠湾攻撃の翌日から、グルー大使夫妻は、大使館員らと共に米大使館内で抑留生活を送ることになった。秩父宮殿下から外務省を通してお見舞いとお別れの品物がひそやかに届けられている。

グルー大使夫妻は、帰国直前の昭和17年6月10日に米大使館の庭に桜を植え、この花が咲く時には平和が必ず訪れると言いつ残した。国務省への機密報告文書を自らの身体に巻き付けて、同年6月27日に交換船に乗り、8月25日にニューヨークに帰着している。

帰国後のグルーは、米国の勝利を確信しつつ、日本に於ける一部軍部の強硬派の実情を講演している。「真珠湾を思い出せ」の言葉が米国民を奮い立たせていた米国に在って、まだ戦争中にもかかわらず、昭和18年(1943)12月シカゴの演説で、グルーは、日本人の好意や従順な態度の例をあげつつ、豊かな文明、経済の安全保障と自由な普遍的文化の秩序で世界を築くための場所を日本に与えようと冷静に結んでいる。日米の友好のために、外交官としてだけではなく人間として自らの道義と理性を以て将来を見通し、米国に於いても勇気をもって困難に立ち向かっている。

太平洋戦争終戦の昭和20年(1945)8月15日にグルーは、国務次官の地位にあったが、同日に辞表を提出、引退した。

J・グルーは、戦後は毎年、日本人高校生の米国留学や、国際基督教大学の設立基金集めなどに尽力した。激動の時代に日米の友情の礎を拓くために多難な外交官の生涯を送り、ハーバード大学名誉博士号を授与された。

ご夫婦は、故郷のボストンで永久の眠りにについている。

●参考文献

ジョセフ・C・グルー著石川欣一訳 滞日十年 ちくま学芸文庫

ジョセフ・C・グルー著細入藤太郎訳 東京報告 日本橋書店

Joseph Grew's ADDRESS At Anniversary of the Illinois Education Association Chicago, Illinois December 29, 1943

Joseph C. Grew SPORT AND TRAVEL in the FAR EAST Houghton Mifflin Company

John Hersey JOE GREW, AMBASSADOR TO JAPAN in LIFE JULY 15 1940 TIME. INC

THE NEW YORK TIMES October 8, 1933

Robert Fearey, "My Year with Ambassador Joseph C. Grew, 1941-1942: A Personal Account," The Journal of American-East Asian Relations 1 (Spring 1992)

宣仁親王妃喜久子著

船山喜久弥著

(社)日米協会編

重光篤編集委員長他

太田尚樹著

W・H・ハインリックス著

中村正則著

国立公文書館アジア歴史資料センター B02030026700、B15100276800M-460 314 309

写真提供:東京ローンテニスクラブ

菊と葵のものがたり 中央公論社

白頭鷲と桜の木 亜紀書房

もう一つの日米交流史 中央公論新社

TLTC100年の歩み 東京ローンテニスクラブ

駐日米大使ジョセフ・グルーの昭和史 PHP研究所

日米外交とグルー 原書房

象徴天皇への道 岩波新書 岩波書店

港区麻布地区総合支所だより



みんなのアイデアでまちを変える ～平成28年度「みんな」でまちを「よく」する『ミナヨク』メンバー募集～



みんなで
まちをよくする

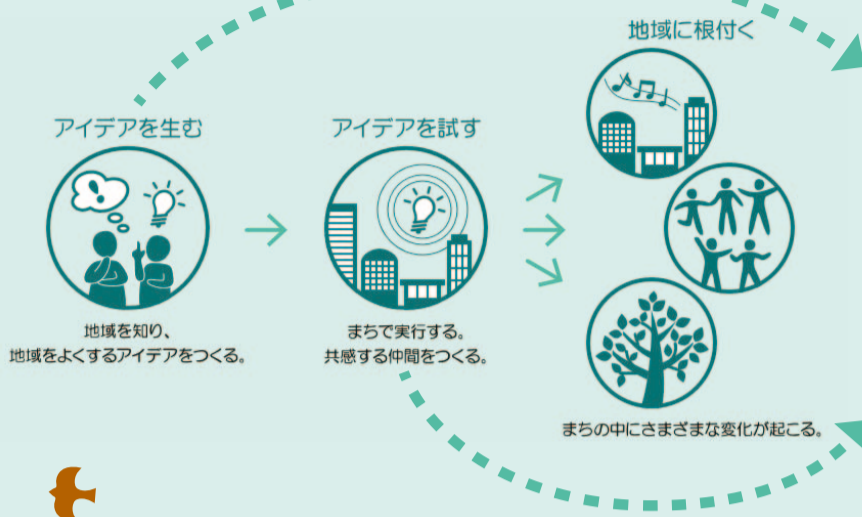
ミナヨク

港区麻布地区総合支所では、「麻布で“地域のちから”活性化事業」として、「今の時代に合った新しい地域づくりを考えること」、「次世代のまちの担い手を発掘・育成すること」を目的として、地域コミュニティ活性化事業である「ミナヨク(※)」を実施しています。

※麻布地区を「みんな」で「よく」するコミュニティデザイン活動の略称です。

ミナヨク
“メソッド”

ミナヨクでは、「麻布」というまちを学び知り、地域の課題解決に向けたアイデアを考え、自らが主体的に地域に関わることで、「麻布」への愛着を醸成します。



地域を学び知る

地域住人との対話や、自らの足でまちを歩き、五感を使って地域を感じ、地域の良いところ、悪いところをさがす。

地域をもっと好きになる

地域の課題を参加者で探し、その課題について話し合い、解決のためのアイデアを考え、実行する。地域に向き合い関わることで地域を好きになる。

これまでの取組

平成27年度は、1～3月にかけて約20名のメンバーで、全6日間のプログラムを実施し、様々なゲストとの対話、フィールドワーク、地域課題解決のためのアイデア検討、発表等を行いました。



- GUEST TALK** 麻布地区のことやアイデアの作り方を知る
- FIELD WORK** 麻布地区を実際に見て、話を聞き、感じる
- DESIGN THINKING** グループで麻布地区をよくするアイデアを創る
- PRESENTATION** 地域の皆さんに発表し、共感してもらう

イベントのお知らせ

ミナヨクで生まれたアイデアが実現!

平成27年度ミナヨクで提案されたアイデアが、ミナヨク修了生により、イベントとしてかたちになります。

はじめてのおつかい

子どもの「はじめてのおつかい」が地域の新しい繋がりを作る。ヒルズマルシェを子どもが自分で歩き回り、自分の力ではじめてのお買い物に挑戦するイベントです。ぜひ会場にお越しください。

- 日時** 平成28年7月2日(土) 10:00～14:00 (13:30受付終了)
- 場所** 赤坂アークヒルズ内 アーク・カラヤン広場 (東京都港区赤坂1-12-32)
- 参加費・申込** 無料。事前申込なし。直接会場へ。

平成28年度「ミナヨク」メンバー募集のお知らせ

平成28年10月から、全7日間の少人数制プログラムを実施します。仲間とのアイデア出しやフィールドワークを通じて、「想像をかたちにするチカラ」をつけ、地域の活性化に取り組む若い人材を募集します。

開催日程(予定) ※原則、全日程にご参加ください。

Day1	平成28年10月12日(水)	19:00～21:30	地域を知る①+ゲストトーク
Day2	平成28年10月21日(金)	19:00～21:30	地域を知る②+ゲストトーク
Day3	平成28年11月2日(水)	19:00～21:30	デザイン思考講座+テーマ作り
Day4	平成28年11月12日(土)	10:00～17:00	フィールドワーク+チームビルディング
Day5	平成28年11月26日(土)	10:00～17:00	アイデアをかたちに
Day6	平成28年12月10日(土)	10:00～17:00	カンファレンス
Day7	平成29年1月27日(金)	19:00～21:30	修了式

最新情報

ゲストやプログラムの最新情報はFacebookから



開催場所

HAB-YU Platform (港区六本木1-4-5 アークヒルズサウスタワー 3F) <http://hab-yu.tokyo/>

対象

- 20～40代の地域の担い手となる以下に該当する方
- まちの活性化に取り組む意欲のある方
- 麻布でのコミュニティデザインに興味・関心のある方(学生、子育て世代、働いている方など)

定員

約20名 ※先着順 **参加費** 無料

応募方法

- 港区公式HP応募フォーム 右のQRコードからお申込ください。
- メール(minato78@city.minato.tokyo.jp)及びFAX (03-3583-3782) 氏名、性別、年齢、住所、職業、電話番号、メールアドレス、一時保育の希望の有無(有の場合は人数)、講座に向けての想い(応募動機等)を記入の上、お送りください。

応募期間

平成28年7月1日(金)～9月15日(木) ※応募多数の時点で、募集を締め切る場合があります。

お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当
電話/03-5114-8812

港区公式HP
応募フォーム



買い物
するなら
地元の
商店街で

ザ・AZABUへの
ご意見・ご要望を
お寄せください

ご住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電話/03-5114-8812 ●FAX/03-3583-3782

編集委員を
募集して
います

地域情報紙「ザ・AZABU」は
ホームページからも
ご覧になれます。

「ザ・AZABU」は英語版
も発行しています。



ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

- Chief 田中亜紀
- Sub Chief 高柳由紀子
- Staff 出石 功子 田中康寛
- 石川 味季 寺尾周祐
- 大澤 佳枝 森 明
- 大村 公美子 畑中みな子
- 小池 澄枝 山下良藏
- 下地 麻由子 渡辺久剛
- 関口 誠

編集後記

今回アラブ イスラーム学院の取材を仕事の都合で断らなければならなくなり、北アフリカにアラビア語留学していた私にとって本当に断腸の思いでした。アッサラームアライクムとは「こんにちわ」に当たる言葉で、あなたに平和がありますよという意味です。今アラブにはテロや内戦の血なまぐさいイメージがついて回ります。でもアラブ人は自分の事よりも相手の平和な日々を願う優しい民族なのです。是非その事を覚えておいて欲しいです。

شكرا ارجو السلام على كل شعوب العالم
「世界中の人々に平和を願っています」の意。(畑中みな子)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。年中無休/午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752
Eメール/info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp